

看護学部紀要発刊に寄せて

飯 田 加奈恵

本学看護学部は2012年4月、「学際的知見に裏付けられた新しい時代の看護を目指し、人の尊厳を守り、人間性豊かで、異文化理解や薬学、福祉に明るい、探究心と倫理性を兼ね備えた看護職者を育成する」という教育目的を掲げて城西国際大学第8番目の学部として誕生した。先行する国際人文学部や経営情報学部、観光学部、メディア学部、環境社会学部等々の、ユニークで幅広い学問領域と豊かな人的資源に支えられながら、地域医療の担い手として、薬学部並びに福祉総合学部と連携した教育プログラムが組めることは、本学看護学部の、大きな強みである。

人口の高齢化に伴い、今日の医療は、従来の治療医学から、生命の質に視点をおいたケアの医学へとかわりつつあり、医療の均霑化や質の問題は、医療経済の議論を巻き込みながら、今や全世界の新たな課題となっている。一定の研修を積んだボランティアを大幅に導入した、インドのケイララ州でのエンド・オブ・ライフケア、広大な国土に高齢者が散在するカナダ、オーストラリアの遠隔地医療の模索、その内容や規模は異なるものの、世界各国で行われている医療・福祉に関する斬新な取り組みは、医療機関の遍在がいわれている本学周辺地域にも大いに参考になる試みである。

国際的素養を身につけ、国際社会に貢献できる基礎的能力を持つ人材の育成は本学看護学部の教育目標の一つであるが、それは単に英語が出来るということではない。医療の動向に関心を持ち、幅広い視野から、地域の、日本の、世界の健康問題を考えることができるそんな基礎的能力を培うこと、それが私たちの意図するところである。

看護学部に求められている期待は限りなく大きい。自然科学の知、人文科学の知と、学際領域に果敢に取り組む姿勢を、自らが指し示すことができるよう、教員一人一人が研鑽に励むことからまず取り組んでいきたいと思う。紀要の発刊、研究内容の充実を図ることもまたその手立ての一つである。

看護学部紀要の発刊に先立ち、多くの困難な問題の解決にご尽力くださいました城西国際大学紀要委員会の先生方、ならびに本冊子の刊行にあたり、査読の労をとっていただいた先生方に深く感謝いたします。